

第 6 次豊橋市総合計画分野別計画 令和 3 年度取り組みまとめ

令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染症が未だ社会に大きな影響を与え続けているなか、第 6 次豊橋市総合計画の初年度として、これまで先人たちが築き上げてきた歴史、文化を礎に、新しい生活様式への対応を踏まえ、本市の持つ魅力をさらに高めながら、「未来を担う 人を育むまち・豊橋」を実現するための政策を推進した。

<主な取り組み（分野別計画）>

1 豊かな人間性を備え、未来を創る人が育つまち

子育てに安心や希望が持てる環境づくりを進めるとともに、豊かな人間性を備え、未来を切り拓くことのできる人材を育むための取り組みを実施した。

子育て支援・児童福祉の充実については、これまでの保育料及び副食費の無償化に加え、本市独自に低所得世帯の第 2 子の保育料についても無償化を拡充し、子育て世帯の経済的負担の軽減を図った。

学校教育の推進については、児童生徒全員に 1 台ずつ配備したタブレット端末を日常的に活用し、主体的・対話的で深い学びを実現する、とよはし版 G I G A スクールを推進したほか、本市独自で私立高校授業料助成を上乗せするとともに、授業料実質無償化世帯を拡大することで、教育費負担を軽減し私立高校に通う生徒の就学を支援した。

その他、のびるん de スクールについては実施校を拡大し、全小学校への展開を見据えながら多彩な学び・交流の機会の場の提供に努めた。また、知と交流の創造拠点として位置付けた「まちなか図書館」を令和 3 年 11 月に新たにオープンし、図書だけでなく人と人との交流によって生み出される知識、体験などを共有・発信できる新しいカタチの図書館として開館した。

2 活力みなぎり、はつらつと働けるまち

東三河地域経済のけん引役を担う産業構造を形成するとともに、それぞれの夢がかなう働く場があり、柔軟な働き方ができるまちづくりを進める取り組みを実施した。

農漁業の振興については、近年大規模化・集約化が進む採卵鶏農家の生産性の向上を促進するため、成鶏の処理能力向上を目的として市内食鳥処理場が実施する施設整備を支援したほか、豊橋産農産物の魅力発信のため、道の駅「とよはし」にてイベントや 6 次産業化商品の開発支援セミナーなどを開催した。

商工業の振興については、中小企業の経営基盤強化のため、設備投資や資金調達などの支援を行った。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受ける中小企業に対し、感染症対策備品の購入や業態転換・EC サイト開設などへの支援を行うとともに、非接触型のプレミアム付電子商品券の発行など様々な消費喚起策を実施した。

その他、中小企業の人材不足解消のため、多様な人材の活用につながるセミナーの開催や環境整備への助成など、雇用の促進と定着につながる支援を実施した。また、コロナ禍における雇用の維持を図るため、休業手当を支給した中小企業に支援を行った。

3 命の安全、心の安心が確保されたまち

大規模自然災害などへの備えを誰もが実践するとともに、パンデミックなどの非常事態にも負けない、強靱で回復力のあるまちづくりを進める取り組みを実施した。

危機管理の強化と防災対策の推進については、防災設備の強化を図るため、大災害発生時にトイレの不足が懸念される指定避難所にマンホールトイレを計画的に整備するとともに老朽化が激しい避難所等誘導標識を更新したほか、災害発生時に指定避難所で情報伝達や安否確認ができるよう、全小中学校体育館などにWi-Fi環境を整備した。

消防・救急救命体制の充実については、救急救命士及び救急隊員の育成や高規格救急車の増車をを行い、救急体制を強化したほか、救急活動時における救急隊員の適切な感染症対策を図り、救急活動体制を維持するため、感染防止衣など対策資器材を拡充した。

その他、今後の高齢化の進行に伴う火葬需要の増加に対応するため、令和3年4月に新たな斎場を供用開始した。

4 みんなで支え合い、笑顔で健やかに暮らせるまち

健康・福祉サービス体制の整備を進めるとともに地域の絆を育むほか、地域医療体制を強化し、安心できる保健医療を提供するための取り組みを実施した。

健康づくりの推進については、新型コロナウイルス感染症患者に対し、医療体制の整備や自宅療養者の支援体制を整えたほか、新型コロナウイルスワクチンの接種促進に向け、市医師会との協力のもと、かかりつけ医による個別接種と集団接種を行うなど、感染症のまん延防止を図った。また、働き盛り世代の健康づくりを推進するため、AI健康管理アプリの試験導入や薬剤師会等と連携した健幸プログラムをオンラインで実施したほか、がん検診と特定健康診査の受診率向上のため、AIやSMSを活用した未受診者勧奨を実施した。

地域福祉の充実については、総合福祉センター内に「福祉相談サポートセンター」を新設し、課題を抱えながらも自ら支援を求めることができない世帯に対して伴走型の支援を行うことで必要な支援サービスにつなげた。

5 互いを尊重し合い、心豊かに暮らせるまち

歴史や芸術文化、スポーツなどにふれあうことができる環境を整えるとともに、多様な価値観を認め合うことのできるまちづくりを進める取り組みを実施した。

スポーツの推進については、新たな補助制度を創設し、スポーツ合宿の誘致をきっかけに、市内の充実した機能をもつスポーツ施設の知名度向上と利用促進を図った。また、東京2020オリンピック競技大会応援の機運醸成のため、聖火リレーを開催したほか、豊橋ゆかりのアスリートの情報発信などを行った。

国際化・多文化共生の推進については、外国人市民も安心して行政サービスを受けられるよう、外国人市民相談を実施するとともに、外国人市民にわかりやすく、伝わりやすいウェブサイト「ぼけとよ」を開設した。また、コロナワクチン接種支援として、集団接種会場へ

の通訳の派遣や、動画による予診票の書き方の解説などを行ったほか、日々更新される感染状況や感染拡大防止策などの関連情報をやさしい日本語を含めた多言語で発信した。

その他、全国的にパートナーシップ制度の導入が進み、誰もが尊重され安心できる環境整備が求められる中、本市においても LGBT 等性的少数者を支援するため、パートナーシップ制度の創設を行った。

6 魅力にあふれ、いきいきとにぎわいあるまち

新たな魅力の創出や既存資源の磨き上げ、にぎわいのある中心市街地の形成など、多くの人から選ばれるまちづくりを進める取り組みを実施した。

まちなかの活性化については、令和3年10月にオープンした「まちなか広場」においてワークショップや様々な団体と連携したイベントを実施したほか、まちなかのにぎわい創出を図るため、まちなかマルシェ等のイベントやペDESTリアンデッキ等でイルミネーション装飾を実施した。

観光の振興については、道の駅「とよはし」を起点とした体験型観光をさらに充実させるため、サイクリストのための工具ステーションを整備したほか、スタンプラリー等のサイクルイベントを実施した。また、本市の観光 PR や広域観光を推進するため、豊橋駅観光案内所で、市内をはじめ東三河等の観光情報を提供するとともに、観光情報の発信機能向上のため、ホームページやインスタグラムを活用した観光資源の情報発信を行った。

その他、のんほいパークにおいて、アジアゾウ3頭の導入により、ゾウの多頭飼育の取り組みを開始し、飼育動物の拡充と生物多様性保全の取り組みの充実を図ったほか、クラウドファンディングを活用した資金調達によりチンパンジー舎の改修を行い、飼育環境の向上を図った。

7 自然と共生し、地球環境を大切にすまち

豊かな自然を生かした、暮らしに潤いと安らぎのあるまちづくりを進めるとともに、SDGs 未来都市として、経済、社会、環境の調和を図る取り組みを実施した。

気候変動対策の推進については、温室効果ガスの排出削減に寄与する再生可能エネルギーの導入促進や効率的な利用を推進するため、市民を対象とするアンケート調査を実施したほか、エネルギーの地産地消の推進を図るため、市民及び事業者に分かりやすい啓発用パネルなどを活用した来場者参加型のイベントを開催した。

資源循環の推進については、さらなるマイボトル・マイカップ利用を促すため、誰でも無料で利用可能な給水器の設置費用の一部を助成する補助制度を創設し、使い捨てプラスチックの削減に取り組む事業所を支援した。また、まだ食べられる食品が捨てられてしまう状況を把握するため、市内の事業者を対象に食品廃棄の実態調査を実施した。

その他、地域に愛される公園を目指し、緑の拠点を維持するため、公園樹などの維持管理に加え、公園の危険木について緊急性の高いものから剪定及び伐採を実施した。

公共交通などの生活基盤を充実するとともに、まとまりがあるまちづくりなどを進め、暮らしやすい便利で快適なまちを形成するための取り組みを実施した。

交通環境の充実については、本市初の東名高速道路のインターチェンジとなる「豊橋新城スマート IC（仮称）」については、令和3年8月の新規事業化の採択を受け、早期開通を目指し事業を進めたほか、観光やスポーツなどと連携してさらなる自転車の活用を進めるため、渥美線サイクルトレイン車両に PR ステッカーを設置する費用の一部を助成するとともに、サイクリングマップを配布した。

住宅環境の整備については、平成31年に完成した西口住宅1号棟に続き、子育て世帯から高齢者まで幅広い世帯に開かれた住宅を目指している西口住宅2号棟について、令和2年度から引き続き建設を進めた。

その他、水道水の安定供給及び経営の効率化を図るため、AI・IoTなどの新技術について検証を開始したとともに、静岡県湖西市と「水道料金収納業務等の共同実施に関する協定」を締結し、コストの縮減につなげた。